

有峰巨木サミット報告

前号に参加募集のチラシを同封したのでご承知かと思いますが、富山県農林水産公社さんは当会との共催で初めて全国から参加者を募り、巨木サミットを開催しました。参加者は当会のメンバーが大半を占め、石川県巨樹の会相談役、濱野一郎さんも講師として登場していただきました。

主催された有峰森林文化村の吉江良さんおよび富山県の森永健一会員、参加された土岐由美子会員、井上利明会員よりご寄稿いただきましたので、早い雪が降りだした現地の雰囲気をお楽しみください。

有峰巨木サミット

開催日 2020年

10月24日(土)～25日(日)
1泊2日

(宿泊：有峰ハウス)

開催場所 富山市有峰ほか

参加人数 17名(うち講師2名)
主催 公益社団法人富山県
農林水産公社

共催 全国巨樹・巨木林の会



夕暮れに赤く染まる北アルプス随一の巨峰「薬師岳」

富山県内・有峰地区の巨木を観察し、日本国内の巨木について知る。

有峰森林文化村「2020有峰巨木サミット」の開催を終えて

有峰森林文化村助役 吉江良
富山県 森永健一会員

【有峰森林文化村とは】

有峰地区は富山県南東部の岐阜県境と中部山岳国立公園に隣接し、北アルプス随一の巨峰と呼ばれる標高2926mの薬師岳の麓に位置しており、周辺は県立自然公園に指定されています。当地区は大正時代から電源開発が進み、昭和35年に有峰ダムが完成しており、ダム周辺の森林は県に委譲され、県が北陸電力と費用を折半して森林や林道の管理を行うとともに、「有峰森林文化村」として、憩いや学びの場として一般にも開放されています。

この有峰森林文化村は、「水と緑といのちの森を永遠に」を基本理念として、平成14年に開村いたしました。文化村では基本理念に基づき、単に通過する観光ではなく、実際に森の中で滞在し大自然を実感していただくため、日帰りや1泊2日の文化活動行事(バスツ

アー)を年間二十数回開催しております。行事の一部を紹介しますと、春に開村し村民が交流する「山開き歓喜の集い」、大自然の中で吟行会を行う「俳句の会」、キノコを採取する「秋の恵みの集い」、など季節に応じたさまざまなメニューで開催しております。

【全国に発信を】

一方、昔人の暮らしの痕跡である「あがりこ」という特徴ある巨木が存在することや、有峰地区では近年巨木調査を行ってきたこと、また全国にあまり知られていない県内のスギの巨木が非常に多いことなどから、これらを全国に発信する行事を新たに開催できないだろうかと考えておりました。そこで全国巨樹・巨木林の会事務局さまにご相談させていただいたところ、会報誌を通じ全国から参加者を募って頂けるなど、ご協力をいただけるとのご返事をいただきました。これによ



有峰地区に多く見られる奇妙な形のトチノキ「あがりこ」

り「2020有峰巨木サミット」を10月24日、25日の1泊2日の行事として開催しましたので、その概要を報告させていただきます。

【17名が全国から参加】

講師として石川県巨樹の会相談役の濱野一郎氏、TOGA森の大学校校長の長谷川幹夫氏をお迎えし、主に全国巨樹・巨木林の会会員の方々のご参加により計17名での開催となりました。全国巨樹・巨木林の会役員からは長澤理事さま、松島事務局長さまにも、ご参加いただきました。

初日の集合箇所は、北陸新幹線の開業により一新された富山駅の北口です。

当日新幹線に到着される方、前日から観光で来ておられる方など、全員定刻までにお集まりいただき、10時に富山駅を2台のバスで出発いたしました。今回は密を避けるためスタッフを入れ計20名の参加に対しバス2台に分乗していただきました。



「始まりの会」での参加者自己紹介（農山村交流センター）



キッチンカー BBB（上市町在住西尾シェフ経営）



長谷川講師による「富山県の天然巨樹・巨木」学習会



県産スギでいっぱいの有峰ハウスでの夕食



濱野一郎講師による夜の学習会（有峰ハウス囲炉裏室にて）

開催初日は冬の気圧配置で、あいにくの雨模様となり、特に視察先である立山町美女平では、落雷の恐れもあったため、大変残念ではありましたが、視察を中止とし、参加者の方々にご説明をし、納得していただきました。同時に降雨量による有峰林道通行止も懸念されたため、早めに有峰へ向かうことを決定しました。

最初富山市原「農山村交流センター」で、キッチンカーによる特製弁当を食しながら、「始まりの会」を開催しました。参加者自己紹介も行っていたが、和やかな雰囲気の中にも、巨木の専門知識が飛び交う楽しい会となりました。

【有峰地区へ】
会終了後、有峰地区へ向かいました。
有峰ビジターセンターに到着後、降雨のため予定を変更し、長谷川講師により「富山県の天然巨樹・巨木」についての学習会を行いました。最大林齢か

ら巨木となりやすい樹種や、富山県でコナラが繁茂した背景、スギ巨木が多い理由などについて、本県の樹種分布の特性を分かりやすく説明いただきました。

学習会終了後に、宿泊していただく有峰ハウスにチェックインしていただきました。

その後17時30分より食堂にて夕食兼懇親会を開催しました。今回の夕食では、通常メニューに加え、文化村特別メニューとして、「岩魚の塩焼」「舞茸汁」「岩魚の骨酒」「山ぶどうジュース」を用意し、みなさまに楽しんでいただきました。

夕食の後、濱野講師による「世界・日本・富山県の巨樹とその生育環境」と題して夜の学習会を開催しました。世界中の巨木について知ることが出来る、非常に貴重で有意義な時間を過ごすことができました。

【2日目】

2日目は、1号車は「健脚コース」、2号車が「楽々コース」に班分けして、朝9時にバスで有峰ハウスを出発し折立地区に向かいました。折立では全員でミズナラの巨木「薬師太郎」と「薬師花子」の幹回りを計測しました。また近くにある愛知大学遭難慰霊碑にお参りを行いました。その後、健脚コースの方は、折立遊歩道から真川を渡り、有峰最大のミズナラ巨木の幹回り測定に行っていたが、7m40cmであることが判明しました。会員の方々からこの木に名前をつけようとの提案があり、仮称ですが「折立太郎」に決定しました。楽々コースの方々は今年周辺にたびたび出没したクマ

との確執について現地で説明を受けました。
午後からも健脚・楽々コースに分かれ、健脚コースは有峰冷谷遊歩道沿の「あがりこ」を視察しました。「あがりこ」は積雪の上で、少しずつ切られてきた、奇妙な形の木で、薪を繰り返し取るための先人の知恵を表しています。東北地方などでも見ることができそうです。
最後に、再度有峰ビジターセンターに集合いただき、振り返りの会としてアンケート記入、終わりの挨拶を行いました。遠方からの参加者の方も多く、新幹線の時間に間に合うか心配でしたが、幸い富山市内での混雑はほとんど無く、予定通りの電車で皆お乗りできたのではないかと思います。

【2つの大きな意義】
今回この行事開催には2つの大きな意義がありました。
1つには、富山県内にあり、まだ知られていない巨木を全国に向け発信することです。
富山県は地上3000mから深海1000mまで、標高差4000mのドラマがある地域と言われています。それだけ急峻であることから、人々が知らない自然環境もまた数多く存在しているとも予測され、当然巨木も未発見のものや、最近ようやく知られるようになったものが多いと聞きます。特に富山県は、実数では屋久島を凌駕するとも言われている「立山町の美女スギ」や、岩を抱え込むように立つ迫力十分な「魚津市の洞スギ」などを有しており、まさに「スギ巨木の王国」になり得るのではないかと感じています。

2つには、有峰森林文化村の全国募集行事を初めて開催できたことです。今回の行事は、文化村が開村19年目にして、初めて全国を対象に募集し、かつ有峰地区以外の視察も含めて行う行事でした。林道の整備が進み、もはや「遙か遠い彼方」ではなく、今、より多くの方に来村いただき、文化村の良さを実感していただく「全国区として」の機会を設ける最初の試みでした。

一方で、予期しない課題も多くありました。美女平に向かうケーブルカーとの天候による調整が難しく、中止とせざるを得なかったこと、降雨による日程変更により座学時間が多くなったこと、予想外の夜間降雪があり、夜の座学時間が大変寒かったことなど、これまでの行事にはない課題がありました。

これら課題や皆様からいただいた意見をもとに、



有峰のミズナラの巨木「折立太郎」（仮称：幹回り7m40cm）と「健脚コース」参加者



冷谷遊歩道沿の「あがりこ」の観察

この巨木サミットを来年以降も継続していきたいと考えておりますので、会員の皆様方のご参加をぜひお待ちしております。

最後に開催にあたりましてご協力をいただきました、全国巨樹・巨木林の会事務局のみなさま、石川県巨樹の会の北川副会長さま、講師の方々、富山森林管理署の職員の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



渇水で地続きとなった宝来島周辺の景色

全国巨樹・巨木林の会会員の皆様へ

富山県有峰森林文化村では、全国巨樹・巨木林の会さまのご協力を得て、昨年度に引続き1泊2日で巨木サミットを開催します。会員の方をはじめ、県内外から多くの方々のご参加をお待ちしております。なお今年度は夏開催のため、会報誌によるご連絡はこれが最終となります。詳細は別添差込パンフをご覧ください、お早めにお申込み願います。

- ・開催趣旨：富山県内の巨木を観察し、全国の巨木について見聞を深める
- ・開催日程：令和3年8月28日(土)～29日(日) 1泊2日
- ・視察箇所等：最大径 15.6 mの巨木がある「魚津市片貝県定公園の洞杉群」
村人に活用されてきた「有峰地区のブナ・ミズナラの巨木など」
- ・夜の語り部講：「全国の巨木を知る」(講師は全国巨樹・巨木林の会から派遣予定)
- ・交通手段等：北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」より当村が準備するバスで移動
- ・宿泊場所：有峰ハウス(当村で運営)
- ・参加費用：約 11,600 円(1泊3食、バス代、保険代含む)



有峰ハウス

富山県有峰森林文化村より
今夏、「2021有峰巨木サミット」を
昨年に引続き開催します。

【有峰巨木サミットに参加して】

東京都 土岐由美子会員

今年は春からコロナで外出もままならない時期が続きました。第一波のピークが過ぎた時、全国巨樹・巨木林の会からの封筒に巨木サミットのお誘いのチラシが入っていました。GOTOトラベルキャンペーンも使えるし、出かけたし一心ですぐに応募しました。有峰ってどこかな。楽しみです。

送られてきた資料を見ると、日程や活動予定の外に携行品も書かれており、長靴持参？東京から持つて行ったら、荷物一杯になる。あわてて電話し貸していただくことになりました。前日まで雨が続き、当日も小雨がぱらついています。富山駅に集まると、それらしい人が集まり、声をかけあって、ごあいさつしました。なかでも地元の方々が長靴で参加されていました。雨も降ってはいるけど。バスに乗ると、総勢20名が2台のバスに分乗です。

当初の予定では初日は美女平の杉を見に行く予定でした。しかし雨の量が多くなると有峰林道が閉鎖され入れなくなる可能性があり、また美女平は高地で、雨をしのぐ所もないので取りやめになりました。残念ですが美女平は観光パンフにも載っているところなのでいつでも行ける。のんびり過ごすことにしました。

紅葉の有峰へ

富山駅から南下し、山に入ると紅葉がまだ残り、行けども行けども紅葉が続く。この山は植林でできないほど急峻だ。有峰口から有料林道に入る。時折薬師岳か、雪山が見える。やっと着いた。有峰湖は水が無い。夏の冷房に電力を使うため、今が一番水の無い時期だそうだ。

ビクターセンターで、「天然の巨木」講習を受けた。巨木になるためには自然環境、利用の仕方、樹種特性の三要素が影響する。東アジアは季節風の影響で樹高が低く、ヨーロッパは50m以上の巨樹が多いそうだ。樹種により寿命があり、有峰に多いブナは200年程度なので、幹回り3m以上は少ないそうだ。富山の森林の特徴は人工林率が低く、全国の41%に対し29%しかない。豪雪と急斜面が多いのが影響している。雪で水が豊富なため、アカマツが少なく、ナラ類が多いそうだ。

有峰ハウスの周りは山の緩やかな斜面にグラウンドやコートなどの設備も充実していた。夕食時には有峰文化村の職員からイワナやマイタケにキノコ汁、イワナの骨酒、焼マイタケに熱燗を注いだマイタケ酒、山ブドウのジュースなどを持ち込んで歓待していただいた。夜に濱野さんから世界の巨樹、マダガスカルのパオバやメキシコの沼杉、アメリカのセコイアなどについてスライドで紹介された。皆さん、海外にも出かけてらっしゃるんですね。標高1000mの高地は深々と冷えて、終わって外を見ると真っ白に雪が広がっていました。雪は例年より早かったそうです。

有峰の巨樹観察

翌日は有峰の周りをバス移動し、折立地区の薬師岳登山道入り口のミズナラの巨木を見たりしました。ここでは足元が危ないと長靴をお借りしました。案内人についてぞろぞろと、山の道なき道を歩き回り、川の上を石伝いに渡ってみたり、ずぶずぶする草道を歩いたり、長靴でよかったです。資料にいただいたミズナラなどを見て回りました。

お昼のカレーの後にはアガリコ大王を見に行きました。有峰湖に沈んだ集落の方が運び出しやすい冬

に、雪の上に出た枝を選んで切り出した跡にまた枝が伸びた台状木です。何度も切られて独特の形になっていました。昔の方は木の知識が多く樹種を選び分けていたそうです。また、富山の植林は春になると「起こし」といって雪に倒された木をまっすぐに直す作業をするそうです。どこの木を見ても根元が横に倒れた跡がついています。地元の方は、太平洋側に行ってみると木の根元はまっすぐだなど思ってたそうです。

* *

今回の有峰にお誘いいただいて、日本海側の豪雪地帯の生活や富山の平野と急峻な山、そこにある豊かな水、山奥の人の暮らしに培われた巨樹との暮らしなど、皆さんの講義やお話から多くのことを学びました。長靴は必需品ですね。

有峰文化村の職員のみなさん、講師の濱野さん、長谷川さん、まとめてくださった全国巨樹・巨木林の会の皆さん、ありがとうございました。また、機会を見つけて出かけてみたいです。

【富山の自然が豊かであることを体験できました】

兵庫県 井上利明会員

令和2(2020)年10月24日～25日に行われた有峰巨木サミットに参加したので、報告させていただきます。関係各位にお礼を申し上げます。開催された富山県の各位には、良い機会を与えてくださり感謝しますとともに、富山県が発展していくための対外的な宣伝の必要性を認識する行事の発端になったのではないかと喜び申し上げます。

さて、初めに巨木と語ろう全国フォーラムに参加

有峰の代表的な巨木 有峰巨木サミット 2020



できなくなつて4年目、今年度の全国フォーラムが中止となり、全国巨樹・巨木林の会主催の観察会も関東地方で開催のため行くことができず、どうしてものかと思つていましたところ、このたび、全国フォーラムに匹敵する規模の有峰巨木サミットが開催され、コロナ禍、富山県農林水産公社様からご案内を受け、4年振りに参加でき、感謝しております。

1 日目は勉強三昧

暖かいこの秋、富山に入りますとあいにくの雨模様で肌寒い。日本海気候は違うなと感じながら、富山駅から20名足らずのメンバーがバスに乗り合わせました。当初、美女平に登り、巨木観察に山歩きのみ予定でしたが、雨が心配されるなか中止となり、立山ケーブル駅近くの農山村交流センターに移動し、昼食。主催者や全国巨樹・巨木林の会からごあいさつ、参加者の自己紹介もあり、有峰巨木サミットがはじまりました。

午後、バスで有峰森林文化村に移動し、木々の紅葉を眺めながら上山。有峰ハウスに入り、荷物を置くと、向いのビクターセンターに集まり、長谷川講師（富山県森林研究所で40年以上にわたり職員として森林観察、保護にあたられた方）様から富山県立山の巨木についてお話があり、まず森林についての現況を教えていただきました。以下はお話のメモ。

巨木に成るためには三要素があり、自然環境、樹種特性、人間の利用。アジアは小木、ヨーロッパ、アメリカは高木。樹種日本一はスギ、2位はケヤキ。スギ巨木本数は屋久島より富山県立山美女平周辺に多く、日本一のスギ大国。富山ではスギの巨木は江戸時代から切つてはならないことになっていて、利用は幹皮の剥ぎ取りのみ。トチノキはあがりこと

いって、積雪の上の枝を幹だけ残して採っていたのが巨木に。有峰ではトチノキのあがりこが多いが、ブナが多い地方ではブナがあがりこの対象木となっている。ミズナラは水分を多く含み、燃えにくく、重量があるため運び出すのが難しく巨木として残った。

有峰ハウスに戻り、夕食をいただき、イワナのコッソ酒、ミズナラに寄生するマイタケの澄まし汁など自然味ある食事と地酒もふるまってください、おいしくいただきました。

役）から世界の巨樹としてアメリカ、マダガスカルに存するバオバブ。アメリカ、メキシコの巨樹、日本全国の巨樹についてビデオ映像で紹介いただきました。木の香りが心地よい木造の有峰ハウス宿泊棟で休ませていただきました。

富山の豊かな自然の記録

朝起きると、辺りは一面に雪化粧をしていて、寒くなっているのに驚かせられました。朝食をいただきながら、午前午後と有峰周辺の山に入り、巨木観察。有峰は海拔1300m程度だが、冬の積雪、寒波で気温が下がるため、北国や高山に生える樹種のダケカサネ、カラマツ、ミズナラなどが多く、北国の植生。バスに乗り合わせ、近くの山間・折立区に行き、下車してすぐの山裾を歩きました。

中部山岳国立公園の北アルプス鳥獣保護区にミズナラの巨樹、幹周り6・3 mがあつた。薬師岳麓にあつて、薬師太郎木と名付けられており、太い幹に黄葉した姿は王者の風格。すぐ近くにミズナラの巨樹が枯れているが、これも幹周り5・7 m。薬師花子木と名付けられ、背は高く雄姿。健脚組が折立遊

歩道に向かつている間、シラカバ林やマユミが鮮やかな桃色の実をたくさんつけているのを観察したり、渓谷を渡ってダケカンバ林、カラマツの幹に熊の剥ぎ取り跡を見たりしました。

幹周り7・4 mで折立太郎と名付けられたミズナラの巨樹にも突き当り、太い幹の雄姿に驚く。林床にはクマイザサ（毛あり）あるいはチマキザサ（毛なし）。ますのすし葉に使われている）が生長し、高山常緑樹のツガ、イタヤカエデの紅葉を見ながらバスにもどりました。そのあと、有峰ハウス近くの猪根山遊歩道に行き、入り口に有峰大助と称されるミズナラの巨木、幹周り4・7 mに出会いました。遊歩道を進むとブナ、ミズナラの合体姉妹木に出会い、面白い姿にみな微笑みました。ブナ大木にはクマヤシがあり、周辺にはホウノキ、ブナ、オオバアサガラ、ヤマブドウ、シラカバ、カメバヒキオコシ（葉が亀の尾の形）がありました。

の尾の形）がありました。

有峰ハウスに戻り、昼食。再びバスに乗り合わせ有峰湖西岸を登り、冷タ谷遊歩道に入り、あがりこのトチノキを観察。針・広混合林、元ワラビ畑にカラマツ、ミズナラ、シラカバが生長し、イノシシ、サルがいるところとなっています。直立高木の五葉松、常緑葉樹、ハイイヌガヤ、サワグルミ高木、トチノキ高木、ヤチダモ高木、コシアブラ林、ハリギリ（八角葉）、ヤマモミジと豊かな植生を観察しました。ちなみに有峰湖は2つの社会貢献をしています。発電量及び水道に使用される水量は、富山市必要量の7割以上を賄うなど貴重な存在です。

以上、今回の催しに参加した記録です。富山の自然が豊かであることを体験できました。